

81春闘決戦前夜 支部独自集集会成功かちとる

八一春闘四月決戦闘争は、政府・当局・日経連の賃金抑制・ストなし攻撃の前に基本的に押さえこまれ、または敗北した。「行政改革」をふりかざした官公労運動破壊、二百億スト損賠、三五万人体制攻撃等々に加えて四月二十日の国鉄運賃値上げ強行などの施策をもって、国鉄労働者への低賃金おしつけ、「国鉄ストライキ一掃」国鉄労働運動解体を狙ったこの攻撃を許さない闘いをますます強化せねばならない。動労千葉は、そういう闘いとして今次八一春闘を位置づけてきたし、三月ジェット決戦ストを闘い抜いてきた。他方、日々鮮明となってきたのが動労「本部」スト破り集団の反動・反労働者性の姿である。春闘拠点・佐倉破壊に失敗するや、二十二日夜、新小岩破壊を策したのである。もちろん、新小岩の闘いによって粉碎されたのは云うまでもないことである。

新小岩の闘い!

総武・武蔵野線の貨物拠点・新小岩支部は、四月二十二日、十七時三十五分より、機関区庁舎玄関前において百名の結集をもって集会が行われた。若林書記長の司会で始まり、松崎支部長の「三五体制攻撃に抗し八一春闘勝利に向け、今こそ団結し闘い抜こう」という決意表明が行われた。

本部派遣の関執行委員から情勢報告をうけた後、来賓の葛飾区労協・社会党代表よりそれぞれ挨拶を受けた。各分科会を代表した八木乗務員会長の力強い決意が行われデモ行進に移った。デモは青年部を先頭に全参加者がかけ声高く構内中を駆けめぐり、終了後勇躍としてスト貫徹ろう城体制に入った。

一方、僅か七名でしかない動労「本部」派は、全く姿を現わさずネットライキをきめこんだのである。二十二時近くになって「動労千葉事務所」(三信ビル)から高崎地本小林某はじめ四名の革マル分子が現われ、区長に「本部」派組合員の「保護」を懇請したのである。この五名は動労千葉組合員の一喝にありや、二階の他区乗務員詰所にとじこもり、いつのまにか姿をくらすといういたらくぶりを見せてくれ、職場組合員の失笑を買ってしまうてであった。

館山、勝浦の闘い!

南房スト拠点の闘いは、館山・勝浦両支部とも十七時三十分、それぞれ庁舎前において開催されたスト前夜集会によって始まった。

各集会とも庄司・窪田両支部長の挨拶、本部派



●またしても、スト破壊=動労千葉破壊のために佐倉にやってきた、79年4・17津田沼襲撃下手人「本部」革マル分子・神保。佐倉組合員に糾弾され、当局・白腕の中に逃げこみ、保護される。(4月22日、佐倉にて)

遣の役員よりの情勢報告と決意を受け、分科会・青年部の決意表明の後構内デモに入った。館山・安西青年部長、勝浦・吉野青年部長の指揮で整然たるデモ行進を貫徹し、決戦に臨んだ。館山支部は、これより前四月十六日、臨時支部委員会を開催し、今次八一春闘勝利の方向性を全体で討議確認し、闘争体制の万全なる確立を期してきたのである。

こうして両拠点支部とも前夜総決起集会の成功をもって全員ろう城体制へと移行した。館山支部では、激励にかけつけてくれた安房地区労・辻田事務局長を迎えて交流会を行い地域春闘の強化を再確認した。

勝浦支部も、青年部を中心とした座談会が行われ、三月ジェット決戦闘争の成果をうちかためていった。かくして南房の闘いは、総武中央・北総の闘いと一体となってかちとられたのである。

81春闘決戦 Aグループ

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎!

新小岩、館山、勝浦

一体となって闘いぬいた